

TMPU Family

東北医科薬科大学報



2022.7

vol. 39



大学より

令和4年度入学宣誓式

医学部より

医学部第1期卒業生誕生

薬学部より

白衣授与式

附属病院より

**「宮城県難病診療分野別拠点病院」および
「宮城県難病地域拠点病院」に指定されました**

令和4年度入学宣誓式

CONTENTS

学長挨拶 1

大学より

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応 2

保健管理センターの利用(小松島・福室) 2

学生相談室の対応 2

大学関係

令和4年度入学宣誓式 3

新入生オリエンテーション 3

令和3年度学部卒業証書・学位記授与式 4

学生関係

特別奨学金について(薬学部対象) 4

令和3年度奨学金受給状況 5

医薬連携

令和3年度医薬研究交流会 5

教育連携協議会について 5

早期体験学習 5

医学部より

新医学部長挨拶 6

医学部第1期卒業生誕生 6

第116回医師国家試験結果について 6

医学部卒業生交流支援センターの紹介 6

修学資金医師支援センターの紹介 6

教育運営協議会 7

授業の実施状況(対面・遠隔) 7

共用試験(CBT・OSCE)について 7

白菊会について 7

大学院医学研究科の設置について 8

進級基準について 8

医学部 後期行事予定 8

臨床研修について 8

薬学部より

新薬学部長挨拶 9

授業の実施状況(対面・遠隔) 9

第107回薬剤師国家試験結果 9

文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応
できる医療人材養成事業」に本学薬学部が選定 9

白衣授与式 10

令和3年度生命薬科学科卒業研究優秀発表賞受賞者決定 10

実務実習について 10

共用試験(CBT、OSCE)について 10

進級基準 11

薬学部 後期行事予定 11

令和3年度就職(進学)状況 12

令和3年度合同就職説明会 12

令和4年度薬学部キャリア・就職支援行事予定 13

教養教育センターより

教養教育センター長挨拶 14

心理学教室 14

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼) 14

令和3年度図書館利用状況・蔵書統計報告 14

大学院より

令和3年度大学院学位記授与関係 15

入試センターより

令和4年度入学者選抜結果 16

令和5年度入学者選抜概要 16

附属病院より

附属病院(本院・若林病院)の体制について 17

本院より

新病院長就任挨拶 17

「宮城県難病診療分野別拠点病院」および

「宮城県難病地域拠点病院」に指定されました 17

患者サービス向上の取り組み 17

若林病院より

新病院長就任挨拶 17

車いすの寄贈について

(東北楽天ゴールデンイーグルス様より) 17

総合診療科が開設されました 17

法人より

任期満了に伴う役員及び評議員の改選について 18

令和4年度事業計画・令和3年度事業報告 19

令和3年度決算 20

令和3年度外部資金獲得状況 21

学内人事 21

福田寛医学部長、柴田信之薬学部長ご退職 22

トピックス

永年勤続者表彰について 23

「あおり監業エキス」の新型コロナウイルス感染予防効果に期待 23

新型コロナウイルス感染対策WEBセミナーを開催 23

旭丘少年野球クラブの皆さんに、Zoomを使って

トレーニング会を開催 23

本学学生が「東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞・笠原賞」

を受賞 24

遠藤史郎准教授がプロ野球年間表彰式「NPB特別賞」を受賞 24

立田岳生講師と成田紘一 助教が

「令和3年度 日本薬学会東北支部奨励賞」を受賞 24

高井淳助教が「第23回日本ヒスタミン学会で

Young Investigator award(和田 記念賞)」を受賞 24

社会人大学院生 伊藤亮太さんが「第13回日本化学療法

学会東日本支部奨励賞」を受賞 24

住友和弘准教授が「第8回 昭和上條医療賞授賞式」で表彰 25

黄基旭教授が日本毒性学会「第8回日化協LRI賞」を受賞 25

教室紹介

医学部 内科学第一(呼吸器内科)教室 25

薬学部 医薬合成化学教室 25

同窓会より

叙勲・表彰 巻末

二松会より

..... 巻末

令和4年度在学生保護者教育懇談会

開催案内 巻末

ご寄付のお願い(教育研究協力資金) 巻末

学長挨拶

一日も早いコロナパンデミックの 終息を願って

理事長・学長 高柳元明



キャンパスの木々や街路樹に若葉が溢れ、緑が日を追ってその色を濃くしています。新型コロナの感染者数は残念ながら依然高止まりの状況ですが、ワクチンの普及や検査・治療・予防方法の進歩とともに、社会は少しずつ制限を緩めコロナ前の活動に戻ろうとしています。

本学でも3月の卒業式を、保護者の皆さまのご列席こそありませんでしたが、3年ぶりに卒業生が一堂に会する形で執り行うことができました。卒業生一人一人の顔を直に見ながら「おめでとう」とお祝いを述べるのができたことは何よりの喜びでありました。そして4月の入学式は、会場が広がったこともあり、保護者の皆さまにもご列席いただくことができました。3月に発生した地震の影響で急きょ会場が変更となり、保護者の皆さまへのご案内が直前になってしまったにもかかわらず、思いがけず多くの皆さまにご列席いただき大変感激いたしました。コロナ禍で苦肉の策として実施しておりますオンライン授業は利点もありますが、やはり対面での授業や実習が大学の基本であることを再認識しております。コロナの状況にもよりますが、できるだけ早く対面授業を基本に教育を進めることができるよう教職員一同検討を重ねております。

さて、平成28年4月に開設した医学部は皆さまのご助力により無事完成し、今年3月に第1期生が卒業いたしました。医学部設置は、本学がこれまでに取り組んできたものとは比較できないほどの大事業であり、その道のりには予想を遥かに上回るさまざまな困難と多くの課題が山積でございます。今回一応の完成を見たとはいえ、まだまだ道のりは続きます。こうした幾多の困難を乗り越えて前進を続けていられるのは、教職員の多大な努力の賜物であり、

同窓生や関係各位のご支援とご協力に支えられていることを実感しております。

東日本大震災からの復興と、以前から深刻化していた東北地方の医師不足を解決する一助となるべく、特例として37年ぶりに新設を認められた本学医学部は「東北の地域医療の未来を支える」という使命を持っています。この使命を果たすため、6年かけて整備して参りました教育体制の成果をある意味示すものが、本学として初めての受験となる第116回医師国家試験でありました。結果は合格率96.8%と、全国医学部新卒者の平均95.0%を上回る誠に立派なものでありました。今、国家試験という大きな壁を見事に突破して医師免許を取得した卒業生の内、6割以上に当たる57名が東北地方で2年間の臨床研修に励んでいます。一人前の医師として、本学の使命を果たしてくれる日も間近です。

また医学部のカリキュラムや教育環境の整備により、医学部ばかりでなく薬学部の学生も、例えば、実際の解剖学実習を体験（見学）できるようになるなど、教育や研究面で大きな変化が起きており、本学に新たな時代が訪れていることを実感します。この新しい時代の中で、本学は大学としてさまざまな改革を進めながら教育研究のより一層の質の向上をはかり、社会にとって魅力ある大学として存在していかねばなりません。医学部と薬学部を有する医療系総合大学となった今、社会や時代が本学に求める役割や重要性も益々大きくなっていくはずですが、私ども教職員は、2つの学部が連携して教育と研究の幅を広げ、東北地方の地域医療を支えるという本学の使命を果たすべく邁進して参ります。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応

本学は、長期化するコロナ禍のなかで、教育・研究活動の充実や良質な医療提供体制の維持に全学を挙げて取り組んでいます。

全学的な活動指針を「新型コロナウイルス感染症に対する東北医科薬科大学の活動指針」として策定し、本学ホームページで公表しております。令和4年7月現在、指針はレベル2(要警戒・中程度の活動制限)です。

また、各学部・附属病院においても、実情を踏まえて適切に対

応するため、アクションプランを策定するなど、新型コロナウイルスの感染状況に応じて柔軟に対応しています。

課外活動についても、コロナ禍になり活動ができない期間が続いておりましたが、7月再開に向けて各種準備を進めております。再開に向けたオリエンテーションや体育施設利用方法説明会等を実施し、各団体が感染対策に配慮した形で活動が出来るよう大学全体でバックアップしていきます。

保健管理センターの利用(小松島・福室)

保健管理センターは学生、教職員の心身の健康の維持・向上を支援しています。また、新型コロナウイルス感染症に関しても、検温フォームをもとに学内の感染拡大防止に対応しています。

体調不良を感じている、持病の管理についての相談や、なんとなく気分が優れないなど学生生活で不安なことがありましたら気軽にご相談ください。学医、臨床心理士、看護師が相談を受けます。また、健康相談やカウンセリングは予約制となっております。事前に来室またはお電話でご予約をお願いします。安心して相談ができるように配慮し、秘密は厳守します。



小松島キャンパス

体調不良やケガなどの急病	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(随時)
学医による医療相談	平日 15:00～17:00(要予約)
臨床心理士による カウンセリング	平日 15:00～17:00(要予約)

直通電話 022-727-0054

福室キャンパス

体調不良やケガなどの急病	平日 月曜～金曜 8:30～15:30 職員不在時は教務課へ問い合わせください
学医による医療相談	掲示により確認
精神科医師による カウンセリング	申し込み方法 1階学生相談室前に設置された申し込み用紙 に記入し、相談ポストへ投函(実施時期要確認)

直通電話 022-290-8865

学生相談室の対応

小松島・福室の両キャンパスでは毎週月曜日に「学生相談室」を開室しています。医学部、薬学部、教養教育センターの教員が相談員となり、勉強や友人、将来のことなど様々な悩みについて一緒に解決方法を考えます。また、もう少し専門的な助言等が必要な場合には保健管理センターやその他の部署などを紹介します。

大学生活では様々なことを経験し成長していきますが、慣れない生活や勉強に不安になったり、つらい思いをすることがあるかもしれません。もし、何か相談したいことがあれば、気軽に学生相談室を利用してください。

なお、相談を希望する場合は、事前に予約が必要です。予約方法や相談担当者については、本学ホームページ掲載の「学生相談室だより」をご覧ください。

本学ホームページのサポート体制ページ

<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/campus/support/>



大学関係

令和4年度入学宣誓式

入学宣誓式を令和4年4月5日(火)10時からゼビオアリーナ仙台において挙行し、医学部100名、薬学部358名、大学院14名、総計472名の新入生を迎えました。この度の入学宣誓式は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、3年ぶりに新入生及び保護者の皆様を一堂に会して行われました。

高柳元明理事長・学長は、学長告辞・理事長祝辞の中で「感染症の大流行や自然災害に直面すると医療の重要性が改めて認識されると同時に、医療現場の厳しさやその中で使命感を持って奮闘する医療従事者の姿がクローズアップされます。みなさんがそう

した状況の中で、強い意志と高い志を持って医療の世界を目指し本学の学生となられたことを、私たち教職員一同、大変嬉しく、また頼もしく思っております。」と述べられ、新入生代表の伊藤佑衣さんが「本学学則を堅く守り、人格の陶冶につとめ学業に専心することを誓います」との宣誓を行いました。

続いて、ご来賓を代表し、村井嘉浩宮城県知事、堤米二 二松会会長より激励の御祝辞を賜りました。

その後、校歌紹介が行われ、式は滞りなく終了いたしました。教職員一同、新入生の皆様のご入学を心よりお祝い申し上げます。



令和4年度入学宣誓式の様子



新入生オリエンテーション

令和4年度の新入生オリエンテーションは、4月4日(月)～8日(金)の計5日間、感染防止策を徹底し小松島キャンパスで実施されました。

薬学部においては、4月4日(月)に学部全体説明会や担任との顔合わせのほか、ピアサポーター(在学生)との交流を行いました。当初は緊張した面持ちだった新入生も、学生同士や先輩との交流を通して打ち解けていく様子が伺えました。

医学部においては、4月4日(月)にノートパソコンを貸与し、基本的な操作確認や遠隔講義の受講のための準備を行いました。また、4月6日(水)～7日(木)には、ノートパソコンを使用して、遠隔にて新入生と教員との交流会や、教務や学生生活に係るオリエンテーションを実施しました。

両学部とも1日でも早く新しい環境に慣れるよう、教職員一同サポートして参ります。



新入生オリエンテーションの様子

令和3年度学部卒業証書・学位記授与式

令和3年度学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式を令和4年3月8日(火)10時からイズミティ21にて、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で挙行了いたしました。

3年ぶりに卒業生・修了生を一堂に会しての授与式となり、平成28年4月に開設した医学科第1期生93名が加わり、薬学科254名、生命薬科学科24名、大学院薬学研究科8名とともに、計379名の新たな門出を祝いました。

高柳元明理事長・学長は、学長告辞・理事長祝辞の中で「薬学部と薬学研究科を卒業された皆さんはこれまでと同様、先輩方の後

に続き医療の世界で大いに活躍してくれることを信じています。そして、医学部を卒業する皆さんは、東北の地域医療の未来を支えるという本学医学部の使命を忘れることなく後輩たちのよき見本となるように新たな道を切り開いて進んでいただきたいと期待しております。」と述べられました。

続いて、ご来賓を代表し村井嘉浩宮城県知事、菊地恵一宮城県議会議長より激励のご祝辞を賜りました。

教職員一同、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念いたします。



令和3年度学部卒業証書・学位記授与式の様子



卒業式後の取材の様子

学生関係

特別奨学金について(薬学部対象)

平成24年度より、学業成績の向上及び学業を奨励することを目的に特別奨学金制度を設け、本学の入学試験において特に優秀な成績により入学した者及び在学中で特に優秀な学業成績を修めた者に対し奨学金を給付しています。

特別奨学金の採用人数及び給付額は、次のとおりです。

○新入生

薬学科…………… 学校推薦型選抜(公募制)6名、一般選抜(前期)12名、給付金額40万円
生命薬科学科…一般選抜(前期)2名、給付金額35万円

○在学生

薬学科…………… 各学年18名、給付月額2万円(年額24万円)
生命薬科学科…各学年2名、給付月額2万円(年額24万円)

令和4年度においては、5月に特別奨学金採用候補者116名を決定。5月31日(火)に採用候補者決定通知書を送付し、給付希望を確認したうえで採用者を決定しました。例年は6月下旬に特別奨学金採用証の交付式を行っていましたが、前年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から交付式を中止とし、採用証を採用者へ郵送いたしました。

令和3年度奨学金受給状況

※対象外 令和4年3月2日現在

奨学金名	大学(医学部)							大学(薬学部)							大学院							合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	D.C4年	計		
日本学生支援機構 第一種	9人	14人	15人	16人	21人	11人	86人	56人	66人	62人	72人	51人	53人	360人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	449人
日本学生支援機構 第二種	15人	23人	20人	20人	31人	24人	133人	108人	124人	96人	95人	94人	74人	591人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	724人
日本学生支援機構 給付奨学金	1人	3人	1人	3人	11人	5人	24人	30人	29人	21人	24人	12人	13人	129人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	153人
東北医科薬科大学特別奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	20人	21人	21人	20人	18人	18人	118人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	118人
高柳奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	8人	7人	9人	14人	14人	12人	64人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	65人
修学資金A方式	35人	35人	35人	35人	34人	35人	209人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	209人
修学資金B方式	20人	21人	20人	19人	21人	17人	118人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	118人
亀井記念財団奨学金	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	0人	2人	5人	3人	1人	12人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	13人
交通遺児育英会奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
あしなが育英会奨学金	0人	1人	0人	1人	0人	1人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人
八戸市奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
涌谷町奨学資金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
ひかり薬局奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	2人	1人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	5人
河内奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	1人	1人	2人	1人	8人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	8人
社の邦育英会	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
川野小児医学奨学金	0人	0人	1人	0人	3人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	4人
朝鮮学会奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
つくし奨学・研究基金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
合計	80人	97人	92人	94人	122人	93人	578人	224人	249人	213人	234人	197人	175人	1,292人	3人	2人	0人	0人	0人	0人	5人	1,875人	
併用者	14人	19人	23人	20人	35人	23人	134人	44人	69人	53人	63人	49人	45人	323人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	457人
実質奨学生数	62人	71人	62人	65人	66人	61人	387人	167人	165人	147人	158人	136人	125人	898人	3人	2人	0人	2人	0人	0人	7人	1,292人	
在籍学生数	100人	106人	99人	100人	96人	95人	596人	332人	340人	314人	359人	292人	296人	1,933人	4人	3人	1人	1人	3人	1人	13人	2,542人	
奨学生の割合	62%	67%	63%	65%	69%	64%	65%	50%	49%	47%	44%	47%	42%	46%	75%	67%	0%	200%	0%	0%	54%	51%	

医薬連携

令和3年度医薬研究交流会

「医薬研究交流会」は、平成28年に本学に医学部が開設されたことを契機に、本学の医薬融合と共同研究推進を目的として平成29年10月に発足し、6年目を迎えました。

令和3年度はこれまでの5年間にわたる医薬連携による共同研究の成果報告の機会として第13回(令和3年12月22日)および第14回(令和4年1月26日)を開催しました。コロナ禍ということもあり、当日はZoomによるオンライン開催ではございましたが、

共同研究の今後の展望や医薬研究交流を促進するにあたっての今後の課題等について、議論する場面もあり、大変有意義な時間となりました。

当日の内容は後日オンデマンド配信を行い、多くの方にご視聴いただきました。

これからも本学の医薬連携研究促進のため、様々な取り組みを提案して参ります。

教育連携協議会について

令和3年4月に「医学教育」、「薬学教育」、「教養教育」それぞれの科目単位での質の向上の観点から、主に学部間の科目連携へと活動を広げるにあたり、具体的な検討の場として「教育連携協議会」を設置しました。

医学部・薬学部の新モデル・コアカリキュラムは、令和6年度入学生からの適用が予定されており、改定に向けた作業を令和4年

度から開始する必要があります。今回の改正は時期が同一であり、地域医療等のキーワードが類似していることも特徴であり、医学部・薬学部間の連携がますます求められています。このことから、学部を超えて相互に専門分野を教育する体制の構築等、新カリキュラムの構築へ向けた検討を順次進めて参ります。

早期体験学習

1年次では早期体験学習として、薬学科は「薬学入門演習」、医学科は「早期医療体験学習」を開講しています。この科目では、患者とその家族の気持ちや生活を理解するという、医療人に必要な心構えを身につけることを目的の一つとしています。授業の一環として、薬学科と医学科合同で半身麻痺、視覚・聴覚障害、高齢者、内部障害をもつ方々の生活を体験する「ハンディキャップ体験」を行いました。視覚障害の疑似体験では、アイマスクを装着し

障害物のあるコースや点字ブロックの上を、白杖を使いながら歩きました。何も見えない恐怖から、なかなか歩みを進められない様子で、ハンディキャップを抱える方々が日常的に感じる不自由さを体感していました。



視覚障害の疑似体験の様子

新医学部長挨拶



医学部長
大野 勲

本年4月1日付で、医学部長を拝命致しました。これまでは、医学部開設時から、教務委員長を担当して参りました。本学医学部は、平成28年4月に初めて入学生を迎え、その入学1期生が本年3月に初めての卒業生として巣立って行きました。医師国家試験合格率は96.8%と全国平均の95.0%を超える好成績でした。この6年間、毎年が新しい授業の繰返しであり、学生と教職員が一致団結して本学医学部の歴史をスタートさせたわけです。先輩の

いない状況で、また、コロナ禍の中で通常授業ができなかった時期もありましたが、当初の目的を達成した学生諸君に敬意を表するとともに、保護者の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。今後は、卒後のキャリア形成や地域定着に向けて、この4月に設置した2つのセンター（卒業生交流支援センター、修学資金医師支援センター）を中心として、卒業生を支援して参ります。また、令和5年4月に開設予定の大学院医学研究科では、高度専門職業人や先進医学研究者の養成を目指します。さらに、東北の地域医療の未来を担う人材の育成という設置当初の使命を堅持しつつ、医学教育分野別評価（令和5年度受審）や医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）を反映しながら、時代の要請に応じたカリキュラムを構築して参ります。引き続き、皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

医学部第1期卒業生誕生

平成28年4月に医学部1期生が、熱い志をもって東北医科薬科大学の門をたたいてから、早いものでもう6年が経ちました。1期生の成長は、本学医学部の成長とともにありました。開設直後の医学部は、キャンパスも数年先のカリキュラムもまだ作成途上で、何もかもが初めての経験であり、先輩から受け継がれる経験や情報もありませんでした。そのような状況の中でも、1期生であることの誇りと「東北地方の地域医療に貢献したい」という思いを胸に、当初の期待以上に、大学と共に新しい医学部を創り上げてくれました。令和4年3月に東北医科薬科大学を巣立ち、医師としての一歩を踏み出す皆さん、本当にご卒業おめでとうございます！東北医科薬科大学は、卒業生の皆さんを応援しつづけます。



卒業式後に撮影した集合写真

第116回医師国家試験結果について

医学部1期生は、去る令和4年2月5日～2月6日に行われた第116回医師国家試験を受験し、合格率は96.8%（卒業生93名中90名合格）と、全国医学部新卒者平均95.0%を上回る結果となり

ました。今後は「東北医科薬科大学」の卒業生として、臨床研修の2年間、東北地方を含むそれぞれの地域で医師としての第一歩を歩み始めていきます。

医学部卒業生交流支援センターの紹介

当センターは卒業生の継続的な成長支援をすることで地域医療を活性化させるとともに、卒業生と在学生と教職員の交流、生涯教育の支援を目的とし新設され、生理学教室の河合佳子教授がセンター長として就任いたしました。

センターでは卒業生交流支援の一環として、医学部SNS「Chimer」を導入いたしました。Chimerのユーザーは医学部卒業生、在学生、教職員に限定しており、興味のあるコミュニティに

入り交流したり、情報収集のツールとして活用することが可能です。また、在学生に向けてキャリアガイダンスの開催等を通し、キャリア形成の支援をいたします。

今後も卒業生の皆さんと大学間で相互支援の関係を築き、より充実したサポートができるよう取り組んで参ります。



河合佳子センター長

修学資金医師支援センターの紹介

当センターは修学資金卒業生医師の適切な配置計画の策定とキャリア支援、修学資金制度の円滑な運用を目的として新設され、外科学第一（消化器外科）教室の柴田近教授がセンター長として就任いたしました。

令和4年3月に初の医学部生が卒業し、修学資金卒業生医師は今後各地域に配置されていくこととなります。当センターでは東北6県の医療の充実と修学生医師のキャリア支援に向けて、一般

社団法人東北地域医療支援機構と連携しながら、東北6県の関係機関等と調整を進めています。

今後も修学資金卒業生医師が安心して東北の地に根ざしてもらえるよう、当センターが関係機関と協力しながら支援していきます。



柴田近センター長

教育運営協議会

令和4年2月16日(水)、新型コロナウイルスの影響で延期となっていた第12回東北医科薬科大学医学部教育運営協議会をオンライン形式で開催しました。里見委員長、高柳理事長の挨拶に続き、本学医学部の入試状況、地域医療への影響の検証、学部教育の状況等について報告いたしました。今回特に、第1期生の卒業研修先につき、約7割が東北地方の病院とマッチし、「東北地

方の医師不足の解消、医師の定着」という本学医学部の使命を一定程度果たすことができたのではないかと、この報告がありました。また、卒業生の支援強化を目的とし卒業生交流支援センター及び修学資金医師支援センターを設置する旨の報告がありました。本協議会開催にあたりご協力いただきました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

授業の実施状況(対面・遠隔)

コロナ禍において、医学部では学生の安全と心身の健康を第一に考え、教育の質を落とさずに学習機会を確保することを目標に掲げています。

1～4年次学生は、一部の講義科目で遠隔授業を併用して実施しているものの、実習科目を含め多くの科目で対面授業を実施しています。5年次学生は附属病院で「診療科臨床実習」を行い、6

年次学生は「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」をネットワーク病院を中心とした学外施設で、診療チームの一員として実際の患者さんを相手に診療業務を分担しながら学修しています。

今後も安全を最優先に、学生の学びの歩みを止めることがないよう、教職員一丸となって日々学生の支援を行って参ります。



医学部の授業の様子

共用試験(CBT・OSCE)について

医学部の共用試験は、次の2つの部分から構成されます。

ひとつは、医師の資格を有していない医学生が診療参加型臨床実習で医行為を行うにあたり、それを許容できる能力や適性を有していることを評価するCBT、臨床実習前OSCEがあります。

4年次後期から開始となる「診療科臨床実習」、6年次前期の「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」を履修するためには、CBT及び臨床実習前OSCEの両方に合格しなければなりません。

もうひとつは、医学生が診療参加型臨床実習により、医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を修得していることを評価する臨床実習後OSCEがあります。

令和4年度は下記のとおり実施される予定です。

CBT	本試験	8月20日(土)
	追再試験	9月10日(土)
臨床実習前OSCE	本試験	8月27日(土)、28日(日)
	追再試験	9月24日(土)
臨床実習後OSCE	本試験	11月5日(土)・6日(日)
	追再試験	11月23日(水)

白菊会について

令和4年3月18日(金)に、仙台葛岡霊園東北大学納骨堂において、納骨式が執り行われました。これは解剖学実習に供された方のご遺骨のうち、大学への納骨を希望された方のご遺骨を納骨堂に納めるもので、東北大学医学部、歯学部及び本学の解剖学担当教員、技術職員、事務職員が出席し、成願者(納骨者)の拝読の後、拝礼を行いました。引き続き、東北大学星陵キャンパスにある「献体の碑」にて「成願者芳名録奉納式」が行われ、白菊会常任

理事・大和田裕二教授(東北大学)のご挨拶の後、芳名録を奉納し、改めて故人の崇高なご意志に敬意を捧げるとともに御霊のご冥福をお祈りしました。



仙台葛岡霊園東北大学納骨堂

大学院医学研究科の設置について

本学は建学の精神である「われら真理の扉をひらかむ」を地域社会において実践すべく、地域医療の課題解決に向けて不断の努力で取り組むことができる医学・生命科学研究者または高度専門職業人を養成することを目的とし、令和4年3月文部科学省に

大学院医学研究科の設置認可申請を行いました。認可後には、来年4月の開設に向けて学生募集を開始します。関係の皆様におかれましては、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

進級基準について

医学部の進級は、下記の医学部履修規程第12条に基づきます。各学年において進級条件を満たさない場合は、原級となります。

なお、定期試験及び追再試験不合格の場合は、進級判定試験(3月上旬～中旬)を行うことがあります。判定試験対象者には、組担任から学生本人に知らせるとともに、文書により保証人に通知します。

(医学部履修規程より抜粋)

第12条 医学部における進級の条件は、次のとおりとする。

(1) 1年次から2年次への進級

- ア 履修する必修の全ての授業科目の単位を修得すること。
- イ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語の科目について、同一語学の科目を2単位以上修得すること。
- ウ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語以外の科目について、4単位以上修得すること。

(2) 2年次から3年次への進級

- ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(3) 3年次から4年次への進級

- ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(4) 4年次から5年次への進級

- ア 履修する必修の授業科目のうち、臨床実習以外の全ての科目の単位を修得すること。

イ 履修する選択必修の授業科目のうち、1単位以上修得すること。

ウ 履修する臨床実習について、4年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

(5) 5年次から6年次への進級

- ア 履修する臨床実習について、5年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

2 前項各号に定められた全ての条件を満たさない場合は、原級に留める。

3 原級に留まった者の既修得単位は、認める。

4 進級は、教授会の意見を聴いて、学長が認定する。

医学部 後期行事予定

8月

8月22日(月)	5年次後期授業開始
8月29日(月)	1年次・2年次後期授業開始
8月29日(月)～9月2日(金)	1年次後期選択必修科目履修登録期間

9月

9月26日(月)	3年次・4年次後期授業開始
9月30日(金)	4年次白衣授与式

10月

10月1日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台会場)
10月9日(日)・10日(月・祝)	大学祭
10月21日(金)	6年次統括試験(1回目)

11月

11月5日(土)・6日(日)	6年次共用試験Post-CC OSCE本試験
11月30日(水)	第2期授業料等納付金納入期限

12月

12月1日(木)	2年次東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭・遺骨返還式
12月16日(金)	6年次統括試験(2回目)
12月28日(水)～1月5日(木)	1年次・2年次冬季休業
12月26日(月)～1月3日(火)	4年次・5年次・6年次冬季休業
12月27日(火)～1月3日(火)	3年次冬季休業
12月26日(月)～1月13日(金)	1年次後期定期試験期間

1月

1月13日(金)	6年次卒業判定
1月16日(月)～23日(月)	3年次後期追再試験期間

2月

2月4日(土)・5日(日)	医師国家試験
2月6日(月)～14日(火)	1年次後期追再試験期間
2月27日(月)～3月8日(水)	1年次・2年次・3年次進級判定試験実施期間

3月

3月8日(水)	卒業証書・学位記授与式
3月16日(木)	進級判定

※定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。

臨床研修について

令和4年2月5日～6日に行われた第116回医師国家試験に合格した本学医学部一期生は、令和4年4月から2年間の臨床研修を行うこととなりますが、全体の64%と多くが東北地方内の病院で臨床研修を行うことが決まっております。

今後も、本学医学部の使命である「東北地方の地域医療への貢献」する意欲をもった卒業生を育成・輩出すべく、地域医療教育に邁進して参ります。

新薬学部長挨拶



薬学部長
吉村 祐一

本年4月1日付で薬学部長を拝命いたしました吉村です。これまで平成29年度から5年間、薬学部教務委員長として学部教育の運営に携わって参りました。今年度から前任の柴田教授の後を引き継ぎ学部長の重責を担うことになり、身の引き締まる思いであります。今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍での授業や大学行事の実施も3年目となりましたが、3月8日(火)には卒業式が、また、4月5日(火)には入学式が、いずれも対面式で実施され、少しずつですが元の状態に戻りつつあります。また、昨年度から医学部のご協力で、薬学部3年生の解剖実習見学が再開され、生命薬科学科では授業や実習も通常通りとなっております。その一方で薬学科については、今年度の前期授業も、前年度同様、半数登校による対面授業と遠隔授業の併用を継続せざるを得ませんでした。学生同士がキャンパスで語り、先輩、後輩との交流を深める。そんな普通のキャンパスライフが制限されている今だからこそ、改めて重要であると認識しております。1日も早く、学生が当たり前の日常をキャンパスで過ごせるよう、大学としても努力を続けて参ります。

授業の実施状況(対面・遠隔)

薬学部では、4月11日(月)より前期授業を開始しました。昨年度に引き続き、受講人数を講義室定員の半数程度に抑えた対面授業と、遠隔授業(オンデマンド配信)併用のハイブリッド形式にて実施しております。対面授業では、新型コロナウイルス感染防止の観点(飛沫・接触感染防止、3密の回避等)から、講義室内の常時換気、入退出時の手指消毒、マスク着用の徹底等を厳密に講じ、実施しています。また、日々の体調管理、検温報告等も行っております。各種演習・実習(卒業研究を含む)についても、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、対面にて実施しております。教職員一同、学修機会を十分に確保できるよう努めて参ります。



薬学部の授業の様子

第107回薬剤師国家試験結果

第107回薬剤師国家試験が2月19日(土)、20日(日)の両日全国9地区を会場として実施され、3月24日(木)に厚生労働省より結果が発表されました。本学の新卒は254名が受験し210名が合格、合格率は82.68%でした。

第107回薬剤師国家試験結果

	新卒			6年制既卒			その他(旧4年制卒)			総計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	254	210	82.68%	133	64	48.12%	1	0	0.00%	388	274	70.62%
私立大学	7,963	6,746	84.72%	5,123	2,082	40.64%	124	18	14.52%	13,210	8,846	66.96%
全大学(国公私立)	8,665	7,386	85.24%	5,217	2,126	40.75%	242	95	39.26%	14,124	9,607	68.02%

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を行って行く予定です。

- ①4月7日(木)～6月30日(木)(41日間) 基礎学力演習(対面講義)
- ②8月3日(水)～8月8日(月)(6日間) 夏期講習会(希望者)
- ③10月17日(月)～11月18日(金)(25日間) 国試対策特別補講I
- ④1月31日(火)～2月2日(木)、2月6日(月)～8日(水)(6日間) 国試対策特別補講II(希望者)
- ⑤4月13日(水)、8月18日(木)・19日(金)、10月3日(月)・4日(火)、11月21日(月)・22日(火)、1月23日(月)・24日(火) 模擬試験(第1回～第5回)

模擬試験結果については、受験生本人だけではなく保証人様宛にもお送りいたします。国家試験受験に際しての参考にしていただければと思います。

文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に本学薬学部が選定

文部科学省の大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に、本学薬学部が選定されました。(メニュー2A:実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備)

本事業は、コロナ禍における実習の減少や代替措置による実施等により、医療人材養成課程における教育の質の低下が懸念

される中、デジタル医療教育用の機器やシミュレータ等を整備し、従来の実習では獲得できなかった能力をも修得させる高度な教育プログラムを構築することを目的としています。

本学は、最新式シミュレータを活用した高度な教育プログラムを構築・実施することで、これからの時代に対応し即戦力となり得る医療人材を引き続き養成して参ります。

白衣授与式

2月17日(木)、薬学部薬学科新5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。

薬学部薬学科では、5年次に病院や薬局の現場において実務実習を行います。この実務実習に先立ち、新5年次生を対象に白衣が授与されました。今年度の白衣授与式は、昨年度に引き続きコロナ禍での実施のため、感染防止対策を講じた上で式典会場から3つの教室へリアルタイム配信形式にて実施しました。

式典会場から高柳理事長・学長が「コロナ禍の状況において、

実習を受け入れて下さった医療スタッフや患者さんへの感謝の気持ち忘れず、多くのことを学び、感じて帰ってきて欲しい。皆さんの実習が実り多きものであるよう祈っています」と激励の言葉をおくりました。

続いて実習生代表2名へ白衣が手渡され、各教室に配信された合図に合わせ、全員が本学のロゴ・大学名が入った白衣に袖を通しました。その後、実習生代表2名から決意表明が述べられ、閉会となりました。



高柳理事長・学長から激励の言葉



学長、学部長から白衣が手渡されました



代表2名による決意表明



実習生代表の加茂さん(写真左)、妻神さん(写真右)



合図に合わせ、全員が白衣に袖を通しました

令和3年度生命薬科学科卒業研究優秀発表賞受賞者決定

例年、薬学部生命薬科学科4年次による卒業研究発表会において、優秀な研究発表を行った学生に対し、優秀発表賞を授与しております。

令和4年2月7日(月)に開催した卒業研究発表会においては、優秀な研究発表を行った2名に対し優秀発表賞を授与することが決定され、学長より賞状と記念品が贈られました。

【創薬科学コース】

氏名 鈴木 拓人(薬理学教室)
論文題名 「Lipopolysaccharide投与による炎症性うつ病モデルマウスの作製とその発症メカニズム」

【生命科学コース】

氏名 津野 沙月(微生物学教室)
論文題名 「βコロナウイルスのRNA-NP相互作用阻害を指標とした抗ウイルス剤の検討」



写真左から溝口生命薬科学科委員長、津野さん、高柳学長、鈴木さん

実務実習について

5年次にそれぞれ11週間の病院・薬局実務実習が実施されています。これは参加型の実務実習であり、学生がどのようなことができるようになったかが評価されます。薬局と病院において関与する疾患を補い合いながら薬学生の臨床教育を進める実習であり、たくさんの疾患について学んでもらうために、代表的な8疾患が挙げられています。高血圧症や免疫・アレルギー疾患、感染症患者は薬局で、がんや心疾患、脳血管疾患の患者は病院で、とお互いに補い合う形でより多くの疾患に関わることが可能となりました。現在新型コロナウイルス感染症が拡がる中、学生は感染予防の実態に触れるなど、これまでになかった経験をしながら実務実習に取り組んでいます。

共用試験(CBT、OSCE)について

薬学科5年次から実施する実務実習の開始前に、医療現場に立つために必要な基本的な技能・態度を身に付けていることが必須となっており、薬学科4年次において共用試験(CBT・OSCE)に合格しなければなりません。

令和3年度の共用試験(CBT、OSCE)については、新型コロナウイルス感染症対策(3密の回避や入室時の手指消毒やマスク着用等)を施した上で実施し、以下の結果となりました。

	実施日程	受験者数	合格者数
CBT	本試験:令和4年1月6日(木)、7日(金)	312名	302名
	追再試験:令和4年2月25日(金)		
OSCE	本試験:令和3年12月11日(土)、12日(日)	312名	310名
	追再試験:令和4年2月16日(水)		
共用試験		312名	301名

進級基準

薬学部の進級基準は下記のとおりです。なお、各学年の進級基準は入学年度によって異なりますので、ご注意ください。

【令和2年度以降の入学生】

1. 薬学科1～3年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2、3年次、生命薬科学科2、3年次においては、前年次における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2. 生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

●GPA進級基準値

必修科目の進級条件(必修科目の未修得単位が4単位以内)を満たしていない場合でも、**未修得単位が6単位以内であり、かつ年間GPAの数値が基準値を上回っていれば進級**とします。

基準値は、当該学年履修科目全体の**年間GPA1.500以上**とします。

GPA制度について(学生便覧より一部抜粋)

本学の薬学部では、令和2年度入学生よりGPA(Grade Point Average)制度の導入を行いました。

GPA制度とは、各授業科目の成績を5段階のグレード[S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)]で評価し、各成績評価段階(評点)に4～0のGPを付与して、1単位あたりの評定平均値(GPA)を算出する制度です。

GPAは修得単位数という「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」を表しています。

GPAの導入により、学期毎の学修成果と学修の状況がより明確になり、学修意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的としています。

●成績評価(区分、グレード、評点、GP)

区分	グレード	評点	GP
合格	S(秀)	100点～91点	4
	A(優)	90点～81点	3
	B(良)	80点～71点	2
	C(可)	70点～60点	1
不合格	F(不可)	59点～ 0点	0
	欠席	—	
	資格無	—	

【平成27年度～31年度の入学生】

1. 薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2～5年次、生命薬科学科2～3年次においては、前年次(薬学科4年次においては、3年次配当科目のみ)における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2. 薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

また、薬学科4年次においては、薬学共用試験に合格すること。

薬学部 後期行事予定

8月

8月22日(月)～11月6日(日) 薬学科5年次実務実習(第Ⅲ期)

9月

9月6日(火)・7日(水) 薬学科4年次CBT体験受験

9月9日(金) 後期授業開始

9月26日(月) 後期オリエンテーション

10月

10月1日(土) 在学生保護者教育懇談会(仙台)

10月3日(月)・4日(火) 薬学科6年次薬剤師国家試験対策第3回模擬試験

10月5日(水)～ 薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)

10月9日(日)・10日(月) 大学祭

10月15日(土)・16日(日) 在学生保護者教育懇談会(秋田、青森)

10月17日(月)～11月18日(金) 薬学科6年次国試対策特別補講I

11月

11月4日(金) 薬学科4年次薬学実力試験(CBT対策)

11月5日(土)・12日(土) 薬学科1・2年次、生命薬科学科1・2年次中間試験

11月21日(月)～2月12日(日) 薬学科5年次実務実習(第Ⅳ期)

11月21日(月)・22日(火) 薬学科6年次薬剤師国家試験対策第4回模擬試験

11月23日(水)～ 薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)

11月30日(水) 第二期授業料等納付金納入期限

12月

12月10日(土)・11日(日) 薬学科4年次薬学共用試験(OSCE)

12月22日(木) 後期授業終了

12月23日(金) 冬季休業(1月5日まで)

1月

1月6日(金)・7日(土) 薬学科4年次薬学共用試験(CBT)

1月10日(火)～19日(木) 後期試験(薬学科4年次 1月10日(火)～17日(火))

1月30日(月) 後期成績Web公開(薬学科4年次のみ)

2月

2月1日(水) 後期成績Web公開(薬学科4年次以外)

2月8日(水)～15日(水) 後期追・再試験(薬学科4年次 2月6日(月)～13日(月))

2月14日(火)・16日(木) 実務実習事前講習会(薬学科4年次)

2月15日(水) 薬学科4年次薬学共用試験(OSCE追・再試験)

2月18日(土)・19日(日) 第108回薬剤師国家試験

2月24日(金) 薬学科4年次薬学共用試験(CBT追・再試験)

3月

3月8日(水) 学部卒業証書・学位記授与式並びに

大学院学位記授与式

3月14日(火) 進級判定

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合があります

令和3年度就職(進学)状況(令和4年6月1日現在)

薬学科96.1% 生命薬科学科100% 進路決定

薬剤師国家試験の合格発表を受け、確定した就職(進学)は以下のとおりです。

◎薬学科

ゼリア新薬工業(株)、日本赤十字社東北ブロック血液センター、シミックヘルスケア・インスティテュート(株)、宮城県職員、福島県職員、(独)国立病院機構 北海道東北グループ、(独)国立病院機構近畿グループ、(独)地域医療機能推進機構(JCHO)北海道東北地区、青森労災病院、東北大学病院、山形大学医学部附属病院、山梨大学医学部附属病院、八戸市立市民病院、八戸赤十字病院、岩手県医療局、盛岡赤十字病院、仙台赤十字病院、みやぎ県南中核病院、(地独)宮城県立病院機構、(地独)秋田県立病院機構、秋田赤十字病院、JA秋田厚生連、(社福)恩賜財団済生会 山形済生病院、北村山公立病院、公立高島病院、日本海総合病院、山形市立病院済生館、公立相馬総合病院、那須赤十字病院、新潟県病院局、静岡済生会総合病院、公立学校共済組合 東北中央病院、盛岡医療生活協同組合、(社医)将道会 総合南東北病院、(医)徳洲会 仙台徳洲会病院、東北医科薬科大学病院、(公財)宮城厚生協会、神林内科小児科医院、(一財)大原記念財団 大原総合病院、福島医療生活協同組合わたり病院、(医)社団筑波記念会 筑波記念病院、(学)埼玉医科大学、国際医療福祉大学成田病院、(公社)地域医療振興協会 伊豆今井浜病院、I&H(株)、会喜調剤薬局グループ、(株)アイセイ薬局、アイングループ、(有)アカイファーマシー、(社)秋田県薬剤師会、(株)アクア マリーナ調剤薬局、アポクリート(株)、(株)アミック、(株)池田薬局、いまいメディカルグループ、(株)いわま薬局、(株)エヌ・エム・アイ、(株)オオノ、カメイ(株)、クオール(株)、(株)くすりのマルト、(株)グッドネイバー、クラフト(株)、(株)コスモファーマ、(株)サノ・ファーマシー、(株)七福薬局むつ、シップヘルスケアファーマシー東日本(株)、総合メディカル(株)、(株)タカサ、中央薬品(株)、(有)つるみ薬局、(株)東京調剤センター、日本調剤(株)、(株)ハローコーポレーション、(株)ハーモニー、(株)ファークロス、(株)ファーマックス、(株)福島医療サービス 保原薬局、(株)富士薬品、(有)マエダファーマシー、(株)ミック、(株)ミッテル、(一社)みやぎ保健企画つばさ薬局、(有)メディカほし薬局、(株)メディカルシステムネットワーク、(株)ヤマザワ薬品、(株)ライプリー、(株)

ワークイン つくし薬局、イオングループ、ウエルシア薬局(株)、(株)カワチ薬品、(株)クスリのアオキ、(株)クリエイトエス・ディー、サンドラッググループ、(株)スギ薬局、(株)千葉薬品、(株)ソルハ、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻、BELLEVUE COLLEGE(アメリカ)

◎生命薬科学科

キッセイ薬品工業(株)、サンノーバ(株)、ニプロファーマ(株)、日本赤十字社東北ブロック血液センター、武州製薬(株)、持田製薬工場(株)、(株)マルハチ、(株)LSIメディエンス、(株)バイタルネット、(株)EP総合、シミックヘルスケア・インスティテュート(株)、宮城県職員、(株)医薬品情報センター、(株)CB NEXT、順天堂大学大学院医学研究科、総合研究大学院大学先端科学研究科、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻、東北大学大学院薬学研究科、名古屋大学大学院医学系研究科、奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科

◎大学院薬学研究科

環境技研(株)、(株)バイタルネット、三協ラボサービス(株)、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程



令和3年度合同就職説明会

合同就職説明会は、就職を希望する学生に対し、各企業・事業所の概要、業務の内容、採用方針及び採用条件等情報収集機会を提供する場となっております。新型コロナウイルスの感染防止の観点から、令和3年度も動画配信やZoom等により遠隔で実施いたしました。

ご参加いただいた企業・事業所は、病院、薬局、ドラッグストア、公務員、製薬企業、CRO・SMO、医薬品卸等計262事業所で、そのうち動画配信でご参加いただいた企業・事業所は199事業所、リアルタイムのZoomで参加いただいた事業所は48事業所という内容でした。

実施期間は、3月1日から4月30日までで、動画を視聴した学生は延べ1,926名、Zoomの参加者は延べ173名でした。

薬学部キャリア支援センター運営委員会では、今後も学生の就職活動や企業の採用活動の動向をみながら、学生の希望や適性に合わせた支援の充実を図ってまいります。また、各種支援行事についても学生のキャリア形成の一助となるよう年間を通して実施して参ります。



オンラインによる説明会の様子

令和4年度薬学部キャリア・就職支援行事予定

4月

薬学科4年生キャリアガイダンス・インターンシップ説明会
(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科2年生キャリアガイダンス
生命薬科学科3年生就職ガイダンス・インターンシップ説明会

5月

職務適性テスト
病院薬剤師に関する説明会(動画配信)

6月

職務適性テストフォローアップ講座(動画配信)
生命薬科学科3年生キャリア支援講座Ⅱ(全4回)
業界説明会(製薬会社(MR)、CRO・SMO、医薬品卸(MS))(動画配信)
業界説明会(製薬会社(品質管理)、化粧品(技術職)、検査(技術職))(動画配信)

7月

業界説明会(公務員)(動画配信)
業界説明会(薬局・ドラッグストア)(動画配信)
生命薬科学科4年生就職希望者に対する個人面談

8月

生命薬科学科3年生インターンシップ事前講習会
生命薬科学科3年生夏季インターンシップ

9月

生命薬科学科2年生キャリア支援講座(全15回・後期授業として開講)
自己分析・履歴書・エントリーシート書き方講座(Zoom遠隔講座)
就職マナー講座Ⅰ(動画配信)
就職マナー講座Ⅱ(着こなし講座)(動画配信)

10月

履歴書・エントリーシートフォローアップ講座(Zoom遠隔講座)
学内公務員講座開講(Web)(~2023.7終了予定):有料
就職マナー講座Ⅱ(就活メイク講座)(Zoom遠隔講座)
就職活動体験発表会(動画配信)
面接試験対策講習会①(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科3年生適性検査R-CAP Web受験(10/24~11/4)

11月

業界・仕事研究セミナー
SPI3解説講座(動画配信)
生命薬科学科インターンシップ事後講習会
就職活動直前講座(自己分析)(Zoom遠隔講座)
製薬会社等内定者との懇談会
面接試験対策講習会②(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科2年生キャリア支援講座講演会(遠隔)

12月

生命薬科学科3年生R-CAP解説講義
生命薬科学科3年生進路調査書Web登録

1月

生命薬科学科3年生進路面談
生命薬科学科3年生就職ガイダンス~就活直前編~
(Zoom遠隔講座)

2月

薬学科4年生就職ガイダンス、インターンシップ説明会
(Zoom遠隔講座)
薬学科5年生就職ガイダンス~就活直前編~(Zoom遠隔講座)
就職活動直前講座(ES・面接)(Zoom遠隔講座)
薬学科5年生進路調査書Web登録

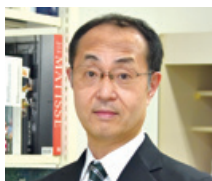
3月

合同就職説明会



教養教育センターより

教養教育センター長挨拶



教養教育センター長
家高 洋

教養教育センターは医学部と薬学部の教養教育を担っており、各専門分野(英語学、独語学、哲学、法学、心理学、体育学、数学、物理学等)の教科ならびに薬学部薬学科と医学部の「大学基礎論」を担当しています。本年(令和4年)3月に独語学教室の山下剛教授が退官されました。山下教授のご専門は19世紀初頭のドイツの文学と芸術活動で、主著は『もう一人のメンデルスゾーン: ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼルの生涯』(未知谷)です。長年に渡り本学の独語教育等にご尽力いただきました山下教授に

この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

ところで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために、昨年度も多くの授業が遠隔授業となりました。薬学部薬学科1年前期の「大学基礎論」では、菅原准教授と遠藤助教の指導の下、「感染症予防のための対面コミュニケーションの機会の減少が健康に与える影響」ならびに「新しい技術の特徴とメリット」に関するレポートを学生に課しました。後者の課題では「IoT家電の利点と課題から考える今後求められる工夫」や「電子書籍と紙書籍」等、優秀なレポートが提出されました。また、文章の書き方についての講義も好評でした。

今年度は基本的に遠隔授業と対面授業が併用されていますが、諸般の状況に対応しながら学生のためになる教育を行っていく所存です。

心理学教室

薬学部では「こころの科学I」(前期)、「こころの科学II」(後期)を担当しています。また、医学部では「行動心理学」と「心の科学」(共に前期)を担当しています。いずれの授業でも、薬剤師や医師、または研究者などとして医療現場で求められる基礎的な心理学の知識を習得するとともに、心理学の知識を用いて自己や他者を理

解しようとする態度を身につけることを目指して授業を展開しています。そのため、自己理解・他者理解を深めるための心理テストやワークなどを授業に取り入れています。また、レポートの内容は授業内で共有し、他者と自分の考え方の違いに気づき、自己理解・他者理解を深めてもらうことを心掛けています。

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼)

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年12月以降、次の図書を購入しましたのご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和3年12月～令和4年3月末までの購入分】
芥川賞受賞作、直木賞受賞作、本屋大賞受賞作など。
計62種 金額225,754円
(年間 計105種 金額500,000円)

令和3年度図書館利用状況・蔵書統計報告

	令和4年3月31日現在	
	本館	医学分館
開館日数	238日	262日
利用対象者数	4,589人	4,589人
入館者数	7,587人	11,929人
貸出冊数	2,067冊	4,498冊
貸出人数	1,009人	2,469人
相互協力(申込)	76件	145件
相互協力(受付)	59件	66件

	年間受入数	蔵書数
図書	2,347冊	122,013冊
電子書籍	1,841冊	34,674冊
雑誌	202種	1,195種
視聴覚	0点	584点

令和3年度は、十分な感染防止対策を講じた上で、閲覧席を一部利用可能といたしました。

また、授業及び研究支援の一環として本学で契約している電子コンテンツを本学施設外からでも利用を可能とする、新たな認証システム「学術認証フェデレーション(学認)」を利用できるようにいたしました。入学時・入職時に配布された認証アカウント(学内ネットワーク認証時の「ID」・「初期パスワード」)でログインできますのでご利用ください。

令和3年度大学院学位記授与関係



令和3年度卒業証書・学位記授与式の様子



令和4年2月14日(月)に博士学位論文、2月15日(火)に修士学位論文の最終試験(口頭による論文発表)があり、2名に博士(薬科学)、1名に博士(薬学)、5名に修士(薬科学)の学位記が授与されました。

氏名及び論文題名は次のとおりです。

薬科学専攻博士課程前期課程(5名)

番号	氏名	教室名	論文題名
1	藤本 聖太	医薬情報科学	数理モデルを用いた新型コロナウイルスの感染拡大の検討
2	八木橋佳章	分子認識学	がん細胞の薬剤感受性におけるスフィンゴ糖脂質Gb3の影響
3	若生 美春	薬理学	Captopril の抗うつ作用における海馬 ACE2/Angiotensin(1-7)/Mas 受容体系の関与
4	唐 好婷	生薬学	閉経後糖尿病モデルマウスにおける加味逍遙散含有シャクヤク成分のpaeoniflorinによる3T3-L1由来脂肪細胞からのエストロジオール分泌を介した血糖値上昇抑制効果
5	SARAH HENDRITA CORALIA ROTINSULU	天然物化学	インドネシアの海洋生物資源を利用した抗感染症薬の探索研究

薬科学専攻博士課程後期課程(2名)

番号	氏名	教室名	論文題名
1	梁 彩霞	細胞制御学	Functional analysis of α 1,6-Fucosyltransferase (FUT8) in pancreatic carcinoma cell lines
2	宋 万里	細胞制御学	OGT Regulates β 1,4-GlcNAc-branched N-glycan Biosynthesis Via the OGT/SLC35A3/GnT-IV Axis

薬学専攻博士課程(1名)

番号	氏名	教室名	論文題名
1	高橋 将典	臨床薬理学	低酸素環境における Lenvatinib の抗腫瘍作用抵抗性機序の解明 -ヒト肝細胞癌細胞株を用いた検討-

入試センターより

令和4年度入学者選抜結果

医学部は一般選抜の一次試験を令和4年1月22日(土)に、二次試験(一次試験合格者のみ対象)を令和4年2月5日(土)、6日(日)に実施しました。また令和4年度より新設した共通テスト利用選抜の二次試験を令和4年3月4日(金)に実施しました。

薬学部は学校推薦型選抜(指定校制・公募制)を令和3年11月20日(土)に、一般選抜(前期)を令和4年1月22日(土)に、一般選抜(後期)を令和4年2月19日(土)に実施しました。

また、新型コロナウイルス感染症対応として、医学部一般選抜、薬学部一般選抜(前期)において追試験を実施いたしました。

令和4年度入学者選抜結果は表(1)(2)のとおりです。

医学部入学者選抜結果

表(1)

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
医学科	一般	95	1,791(639)	1,711(619)	352(128)	98(40)	18.9倍	4.9倍
	共通テ	5	49(19)	49(19)	9(2)	2(0)	9.8倍	5.4倍
	計	100	1,840(658)	1,760(638)	361(130)	100(40)		

表(2)

薬学部入学者選抜結果

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率	区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数					募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
薬学科	推薦(指定校)	50	43(33)	43(33)	43(33)	43(33)	0.9倍		生命薬科学科	推薦(指定校)	5	8(6)	8(6)	8(6)	8(6)	1.6倍	
	推薦(公募)	75	139(90)	139(90)	94(66)	94(66)	1.9倍	1.5倍		推薦(公募)	5	6(4)	6(4)	3(2)	3(2)	1.2倍	2.0倍
	一般(前期)	120	326(163)	318(159)	239(113)	146(68)	2.7倍	1.3倍		一般(前期)	13	48(26)	44(24)	36(17)	20(9)	3.7倍	1.2倍
	一般(後期)	32	91(45)	73(35)	42(21)	24(12)	2.8倍	1.7倍		一般(後期)	4	16(13)	12(10)	7(6)	1(1)	4.0倍	1.7倍
	共通テ(前期)	15	207(115)	206(114)	123(72)	10(5)	13.8倍	1.7倍		共通テ(前期)	3	33(23)	32(22)	21(14)	1(1)	11.0倍	1.5倍
	共通テ(中期)	5	36(20)	35(20)	15(11)	2(1)	7.2倍	2.3倍		共通テ(中期)	若干名	10(6)	10(6)	5(2)	3(1)		2.0倍
	共通テ(後期)	3	20(11)	20(11)	10(5)	2(0)	6.7倍	2.0倍		共通テ(後期)	若干名	3(1)	3(1)	3(1)	1(0)		1.0倍
	計	300	862(477)	834(462)	566(321)	321(185)				計	30	124(79)	115(73)	83(48)	37(20)		

令和5年度入学者選抜概要

令和5年度入学者選抜より、薬学部一般選抜(前期・後期)における理科の配点を、100点から200点に変更いたします。令和5年度入学者選抜概要は表(3)(4)のとおりです。

<医学部>

【募集人員】医学科:100名

表(3)

	一般選抜					大学入学共通テスト利用選抜			
	95名(修学資金枠55名、一般枠40名)					5名(一般枠5名)			
試験日	一次試験		二次試験(一次試験合格者のみ)			一次試験		二次試験(一次試験合格者のみ)	
	令和5年1月21日(土)		令和5年2月4日(土)、5日(日)			【大学入学共通テスト試験日:令和5年1月14日(土)、15日(日)】		令和5年3月2日(木)	
実施都市	仙台	東京	大阪	札幌	仙台	本学での個別試験は課さない。			仙台
合格発表	令和5年1月27日(金)		令和5年2月10日(金)			令和5年2月24日(金)		令和5年3月10日(金)	

<薬学部>

【募集人員】薬学科:300名、生命薬科学科:30名

表(4)

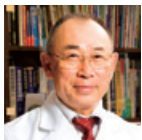
	学校推薦型選抜	一般選抜		大学入学共通テスト利用選抜		
	(公募制)	(前期)	(後期)	(前期)	(中期)	(後期)
薬学科(6年制)募集人員	75名	120名	32名	15名	5名	3名
生命薬科学科(4年制)募集人員	5名	13名	4名	3名	若干名	若干名
試験日	令和4年11月19日(土)	令和5年1月21日(土)	令和5年2月18日(土)	【大学入学共通テスト試験日:令和5年1月14日(土)、15日(日)】		
実施都市	仙台	仙台、東京、水戸、郡山、山形、秋田、盛岡、青森、札幌	仙台、東京、郡山、山形、盛岡	本学での個別試験は課さない。		
合格発表	令和4年12月1日(木)	令和5年1月27日(金)	令和5年2月27日(月)	令和5年2月10日(金)	令和5年2月27日(月)	令和5年3月20日(月)

※指定校制<薬学科50名、生命薬科学科5名>の募集内容等については、該当する高等学校等に直接通知します。

※両学部ともに、仙台試験会場は小松島キャンパス

附属病院より

附属病院(本院・若林病院)の体制について



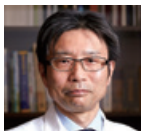
統括病院長
近藤 丘

東北医科薬科大学には福室本院と若林病院の2つの附属病院があります。医学部新設にあたって医学部敷地内に最低600床を有する附属病院が必要となり、譲渡されたもう一つの病院と合わせて3病院の病床を福室本院600床、若林病院127床に再編して現在に至っています。両病院は従来からともに急性期医療が中心でした

が、福室本院の急性期機能の強化を目的に回復期リハビリ病床を若林病院に移し、若林病院は現在急性期病床95床、回復期リハビリ病床20床、地域包括ケア病床12床での運用となっています。しかし、この2病院は宮城野区と若林区と診療圏が離れているので、回復期医療面での分担を強化するとともに、医師数の充足を待って若林病院の急性期医療にも力を入れ、2病院が協力して収益の向上を目指す体制を構築していきたいと考えています。

本院より

新病院長就任挨拶



病院長
佐藤 賢一

本年4月1日(金)に東北医科薬科大学病院・病院長を拝命しました佐藤賢一です。私は、平成29年より消化器内科科長として当院での消化器内科診療業務に従事するとともに平成30年からは副病院長、患者支援・医療連携センター長として、地域医療連携に携わって参りました。今後は病院の運営に尽力いたしますので何卒よろしくお願い致します。当院は新たなスタートを切って6年が経過し、高度な医療の提供を行う体制も整備されてきております。当院を受診する患者さんも年々増加しており、名実ともに大学病院として発展を続けております。これからも安全で良質な医療の実践を行うとともに地域医療の将来を担う医療者を育成していけるよう継続して努力する所存です。

患者サービス向上の取り組み

外来・退院患者アンケートの意見を受け、患者サービス向上に繋がる2つの施策を実施しました。

1つ目は、キッチンカーの誘致です。院内の食堂や喫茶店の閉店に伴い、「飲食休憩の場がない」というご意見が多く寄せられておりました。そこで、宮城県キッチンカー協会様と契約し、毎営業日に2店舗ずつ多種多様なメニューを提供いただいております。出店場所の付近には、ソーシャルディスタンスを施した休憩室を完備しました。

2つ目は、案内表示の見直しを検討し、錯視サインを設置しました。錯視サインとは、目の錯覚で立体的に見える案内表示のことです。「新館や救急センターへの行き方がわからない」というご意見に対し、患者さんの目に留まる案内を本館1階の廊下に設置しました。

以上、2つの施策が、当院を受診される多くの患者さんの利便性向上に繋がれば幸いです。



キッチンカー



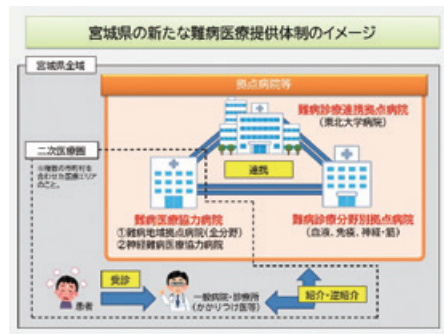
錯視サイン

「宮城県難病診療分野別拠点病院」および「宮城県難病地域拠点病院」に指定されました

当院は令和4年1月26日(水)付で、「宮城県難病診療分野別拠点病院」および「宮城県難病地域拠点病院」の指定を受けました。「宮城県難病診療分野別拠点病院」においては、血液系と免疫系の指定を受けています。

「宮城県難病診療分野別拠点病院」とは、当該専門分野の難病の初診から診断に至るまでの期間をできるだけ短縮するように必要な医療等を提供し、難病の患者さんやそのご家族の意向を踏まえ、身近な医療機関で治療を継続できるように支援する病院です。また、「宮城県難病地域拠点病院」とは、難病診療連携拠点病院等からの要請に応じて難病患者さんの受け入れを行います。確定診断が困難な患者さんを難病診療連携拠点病院等へ紹介し、患者さんが適切な医療を受けられるよう努める病院です。

この医療提供体制は難病の患者さんやご家族に対して、専門領域の診断、治療やまた、身近な医療機関で医療の提供と支援が可能となるような新たな医療提供体制となり、宮城県の難病診療連携拠点病院である東北大学病院様と連携し推進して参ります。



若林病院より

新病院長就任挨拶



病院長
赤井 裕輝

平成28年より福室本院の糖尿病代謝内科・科長を務めてきました、赤井裕輝と申します。このたび東北医科薬科大学若林病院・病院長を拝命しました。よろしくお願ひいたします。当院は昭和54年仙台市若林区の現在地に、日本電信電話公社により開設された東北通信病院を源流とします。民営化後はNTT東日本東北病院として、東日本大震災時も含め長く市民の健康を支える存在でした。6年前、本学医学部開設に際して附属病院となり、医学生・薬学生の教育を担ってきました。当院は各科に専門医のそろう若林区唯一の総合病院です。クリニックの先生と連携し、若林区、太白区、名取市、岩沼市の皆様に充実した医療と健康と安心をお届けできるよう努力して参ります。

車いすの寄贈について(東北楽天ゴールデンイーグルス様より)

東北楽天ゴールデンイーグルス様より「楽天イーグルスオリジナルデザイン車椅子」1台を寄贈いただきました。2021シーズン中に楽天生命パーク宮城で開催された一軍公式戦全72試合中33試合で楽天イーグルスの選手がホームランを記録したことを受けて、33台の車いすが東北各地の施設に寄贈されたものです。



総合診療科が開設されました

令和4年4月1日、東北医科薬科大学 若林病院に総合診療科が開設されました。スタートアップメンバーは、それぞれ循環器、総合診療、救急、消化器にスペシャリティーを有しております。毎日の新患、再来に加え、午前の救急依頼に対応しています。総合診療科の基本的な診療ポリシーとして当院で対応可能な症例についてはお断りせずに入院治療させていただきます。若林地域で唯一の総合病院として、地域医療への貢献度を高められるようできることを少しずつ増やしスタッフ一同研鑽を重ねて参ります。また、当院で完結できない症例については、本院と密に連携をとりながら対応して参ります。



任期満了に伴う役員及び評議員の改選について

令和4年4月19日、20日開催の理事会・評議員会において、役員及び評議員の改選が行われました(学長理事・評議員を除く)。なお、任期は令和4年4月20日～令和8年4月19日の4年間で。

<理事> 定数7～9名、現員8名、任期4年 ※学長理事は3年

氏名	主な現職等
高柳元明(理事長)	東北医科薬科大学 学長
高柳和枝	高柳内科医院 院長
櫻田忍	オピオイド研究所 所長
和田裕一	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 名誉院長
近藤丘	東北医科薬科大学 統括病院長
大野勲	東北医科薬科大学 医学部長
吉村祐一	東北医科薬科大学 薬学部長
福田寛	元東北医科薬科大学 医学部長

<監事> 定数2～3名、現員3名、任期4年

氏名	主な現職等
千葉信博	株式会社カントリークラブ 監査役(非常勤)、株式会社クロップス 監査役(非常勤)
佐藤克巳	東北労災病院 名誉院長
一條宏	株式会社医療経営研究所 代表取締役

<評議員> 定数15～20名、現員19名、任期4年 ※学長評議員は3年

高柳元明(理事長)	井ノ口仁一	北村哲治	福田寛	佐藤厚子
櫻田忍	近藤丘	瀬戸初江	佐藤賢一	黒崎米造
高柳和枝	大野勲	原忠篤	赤井裕輝	山田純司
和田裕一	多田晴観	吉村祐一	加藤君子	

令和4年度から新たに就任された役員及び評議員のご略歴は以下のとおりです。

<理事>



おおの いさお
大野 勲氏

大野勲氏は、昭和55年3月東北大学医学部卒業後、東北大学医学部附属病院、福島県原平市渡辺病院で勤務され、平成2年7月からカナダのマックマスター大学へ博士研究員として留学されております。帰国後、東北大学附属病院助手、院内講師、助教授を経て平成15年4月に本学教授として着任されました。平成27年4月より評議員に就任され、平成28年4月より医学部副学部長、令和4年4月からは医学部長を務められております。

<理事>



よしむら ゆういち
吉村 祐一氏

吉村祐一氏は、昭和60年3月北海道大学薬学部卒業、平成2年5月北海道大学大学院薬学研究科博士課程後期課程単位取得退学後、北海道大学薬学部文部教官助手、ヤマサ醤油株式会社研究開発本部研究員、昭和大学薬学部講師を経て、平成16年4月に本学に講師として着任され、平成17年4月に助教授、平成26年4月に教授に昇格されました。また、令和3年4月より評議員に就任され、令和4年4月からは薬学部長・大学院薬学研究科長を務められております。

<理事>



ふくだ ひろし
福田 寛氏

福田寛氏は、昭和53年3月東北大学大学院医学研究科修了後、同大学抗酸菌病研究所附属病院に医員として入職、同研究所助手在職中、フランスのフレデリック・ジョリオ研究所へ研究員として留学されております。放射線医学総合研究所室長、東北大学抗酸菌研究所教授、同大学加齢医学研究所教授、研究所長を歴任され、平成25年4月に本学に特任教授として着任されました。同年に評議員、平成26年4月に理事に就任、平成28年4月からは医学部長を務められ、令和4年3月に退職されました。

<監事>



いちじょう ひろし
一條 宏氏

一條宏氏は、昭和51年本学卒業、昭和54年慶應義塾大学大学院経営管理研究科ビジネス・スクール卒業後、昭和57年株式会社バイタルネットに入職、営業企画室長、取締役を歴任し、平成12年より株式会社医療経営研究所代表取締役に就任され、平成22年4月20日から令和4年4月19日まで、本法人評議員に就任されておりました。また、現在、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス取締役、公益社団法人日本薬剤師会理事を務められております。

〈評議員〉



さとう けんいち
佐藤 賢一 氏

佐藤賢一氏は、昭和63年3月東北大学医学部卒業後、白河厚生総合病院、岩手県立中央病院、東北大学医学部附属病院などで勤務され、平成12年9月よりアメリカの国立がん研究所に客員研究員として留学されました。帰国後、東北大学病院での勤務を経て、宮城県立がんセンター研究所臨床検査室室長、同研究所がん幹細胞研究部部長を歴任されました。平成29年4月に本学に教授として着任され、令和4年4月からは東北医科薬科大学病院長に就任されております。

〈評議員〉



あかい ひろあき
赤井 裕輝 氏

赤井裕輝氏は、昭和54年3月弘前大学医学部卒業後、初期研修を経て昭和60年3月東北大学大学院医学研究科内科学系専攻を修了(医学博士)、昭和62年9月よりアメリカの国立衛生研究所(NIH)へ留学されました。帰国後、東北大学医学部第三内科助手を経て、仙台厚生病院糖尿病代謝センター長、同副院長、東北労災病院糖尿病代謝センター長、同副院長を歴任され、平成28年4月に本学に准教授・病院教授として着任、平成30年7月教授に昇格されました。また、令和4年4月からは東北医科薬科大学若林病院長に就任されております。

〈評議員〉



かとう きみこ
加藤 君子 氏

加藤君子氏は、昭和49年3月本学薬学部衛生薬学科卒業後、東北大学医学部附属病院、医療法人寶樹会仙塩総合病院に勤務され、同薬剤部長、同法人仙塩利府病院薬剤部長、宮城県病院薬剤師会理事を歴任されました。平成28年3月に退職後、藤沢メディコン株式会社取締役役に就任され、同社かみ薬局に薬剤師として勤務されております。

〈評議員〉



さとう あつこ
佐藤 厚子 氏

佐藤厚子氏は、昭和61年3月本学薬学部衛生薬学科卒業後、秋田県厚生農業協同組合連合会由利調剤専門薬局での勤務を経て、昭和62年3月に本学に助手補として着任され、昭和62年6月助手、平成17年4月に講師、平成24年4月に准教授、平成28年4月に教授に昇格されました。また、令和4年4月からは薬学部学生委員長を務められております。

〈評議員〉



くろさき よぞう
黒崎 米造 氏

黒崎米造氏は、文部科学省をはじめ、国立大学法人等で勤務され、山形大学財務部長、千葉大学副理事・財務部長、筑波大学財務部長、室蘭工業大学副学長・事務局長、北海道教育大学理事・事務局長を歴任し、令和4年4月より本学に事務局長として着任されました。

〈評議員〉



やまだ じゅんじ
山田 純司 氏

山田純司氏は、国立青少年教育施設、宮城県の国立大学等で勤務され、東北大学薬学部・薬学研究科事務長、同大学多元物質科学研究所事務部長を歴任し、令和3年4月より本学に医学部事務部長として着任されました。

令和4年度事業計画・令和3年度事業報告

〈令和4年度事業計画〉

令和4年3月19日開催の第487回理事会において、令和4年度事業計画が承認されました。事業計画における各事業領域の重要施策の概要は、以下のとおりです。

1. 教育領域

両学部の教務委員会を中心として、教育改善に関するPDCAサイクルの確立を目指し、教学マネジメントの確立に向けた取り組みを推進します。

2. 研究領域

令和5年4月の大学院医学研究科開設に向けた準備を着実に進めるとともに、その申請内容を踏まえ、基礎研究から臨床応用までの一貫した研究を支援するための体制整備を行います。

3. 学生支援領域

両学部の学生委員会と教学IR委員会が連携して、学生生活調査や課外活動調査等にて収集した情報の解析を行い、その結果に基づき、より一層の学生支援の充実を図ります。

4. 入学者選抜領域

対面形式による高校訪問、進学相談、オープンキャンパス等の実施を基本としながらも、コロナ禍における対応として、本学ホームページにおけるデジタルコンテンツや各種パンフレットの内容充実に努めます。

5. 病院運営領域

本院・若林病院の2病院体制における効率的な機能分担と連携の強化を目指し、本院は救急医療を含めた急性期・高度急性期、若林病院は急性期・回復期の機能強化を図ります。

6. 経営管理領域

学内の危機管理体制の強化に努め、各種ハラスメントの防止対策、情報セキュリティに関する周知徹底等を図ります。また、附属病院の収支改善や外部資金の獲得強化、予算管理の厳格化等の取り組みを進めていきます。

7. 新型コロナウイルス感染症への対応

大学・附属病院ともに、国や県により示されている様々な留意事項や措置等を遵守しながら、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、柔軟に対応してまいります。

〈令和3年度事業報告〉

令和4年5月28日開催の第484回理事会において、令和3年度事業報告が承認されました。本法人の教育・研究・附属病院の運営等の事業や財務の概要について、令和3年度の概略を掲載しております。

令和4年度事業計画・令和3年度事業報告は、本学ホームページ(<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和3年度決算

令和3年度決算は、法人監事の監査を経て理事会で承認された後、評議員会へ報告されました。また、監査法人による監査も適正意見を得ております。決算の概要は下記のとおりです。

令和3年度は、事業活動収入326.0億円(前年度比22.8億円増)から事業活動支出320.1億円(前年度比16.8億円増)を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は5.8億円(前年度比5.9億円増)となりました。また、基本金組入前当年度収支差額5.8億円

から基本金組入額8.6億円を控除した当年度収支差額は△2.7億円となりました。

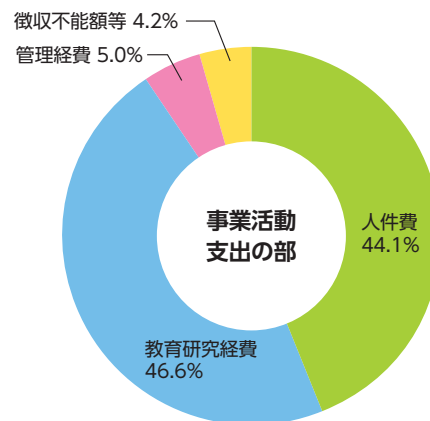
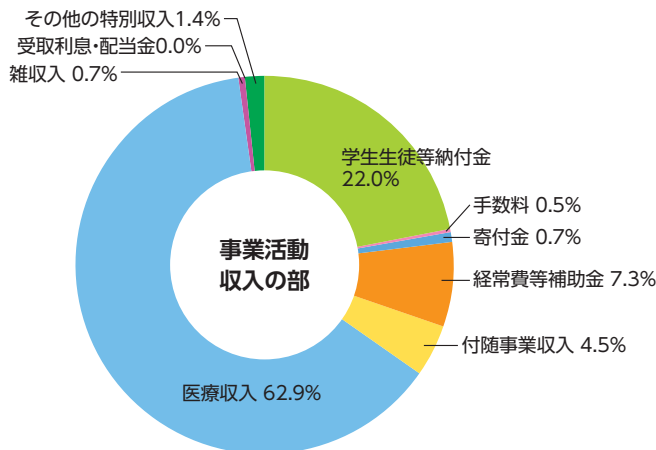
決算の詳細につきましては、本学のホームページで掲載を行っておりますので、ご参照下さい。

令和4年度は、大学・附属病院の収益増強と経費削減の具体策実施による収支改善に主眼を置き、適切な財務管理に取り組んでまいりますので、関係各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和3年度事業活動収支決算(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:百万円)

区分	事業活動収入の部				事業活動支出の部				
	科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,174	7,174	0	人件費	14,134	14,108	26	
	手数料	158	160	△ 3	教育研究経費	14,812	14,909	△ 97	
	寄付金	219	220	△ 1	(うち、医療経費)	(7,192)	(7,215)	(△ 23)	
	経常費等補助金	1,929	2,363	△ 434	管理経費	1,616	1,610	6	
	付随事業収入	1,438	1,466	△ 28	徴収不能額等	1,349	1,355	△ 6	
	医療収入	20,422	20,507	△ 85	徴収免除額	0	0	0	
	雑収入	241	242	△ 1					
	計	31,581	32,133	△ 552	計	31,911	31,982	△ 71	
教育活動収支差額						△ 330	152	△ 482	
教育活動外収支	受取利息・配当金	0	0	0	借入金等利息	19	19	△ 0	
	計	0	0	0	計	19	19	△ 0	
教育活動外収支差額						△ 19	△ 19	0	
経常収支差額						△ 349	133	△ 482	
特別収支	資産売却差額	7	7	0	資産処分差額	0	10	△ 10	
	その他の特別収入 (うち、教育研究協力資金)	405 (1)	455 (0)	△ 50 (0)	その他の特別支出	0	0	0	
	計	412	462	△ 50	計	0	10	△ 10	
特別収支差額						412	452	△ 40	
事業活動収入計		31,993	32,595	△ 602	事業活動支出計		31,930	32,011	△ 81
予備費						91		91	
基本金組入前当年度収支差額						△ 28	584	△ 612	
基本金組入額						△ 975	△ 858	△ 117	
当年度収支差額						△ 1,003	△ 274	△ 729	



令和3年度外部資金獲得状況

令和4年3月31日時点

※契約済、今年度入金予定の分を含む

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省)

(単位:円)

	薬学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	13	27	40	4
直接経費	17,200,000	39,900,000	57,100,000	2,650,000
間接経費	5,160,000	11,970,000	17,130,000	795,000
合計	22,360,000	51,870,000	74,230,000	3,445,000

	医学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	16	39	55	25
直接経費	21,300,000	49,600,000	70,900,000	4,550,000
間接経費	6,390,000	14,880,000	21,270,000	1,365,000
合計	27,690,000	64,480,000	92,170,000	5,915,000

	教養教育センター・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	2	1	3	3
直接経費	3,000,000	500,000	3,500,000	1,130,000
間接経費	900,000	150,000	1,050,000	339,000
合計	3,900,000	650,000	4,550,000	1,469,000

	その他・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	0	1	0
直接経費	1,100,000	0	1,100,000	0
間接経費	330,000	0	330,000	0
合計	1,430,000	0	1,430,000	0

※その他内訳:本学附属病院職員

	大学全体・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	32	67	99	32
直接経費	42,600,000	90,000,000	132,600,000	8,330,000
間接経費	12,780,000	27,000,000	39,780,000	2,499,000
合計	55,380,000	117,000,000	172,380,000	10,829,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(2) 科学研究費助成事業(厚生労働省)

(単位:円)

	大学全体・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	0	0	0	10
直接経費	0	0	0	5,300,000
間接経費	0	0	0	0
合計	0	0	0	5,300,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(3) 受託研究費等

(単位:円)

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	5	13	16	34
直接経費	15,363,000	14,295,790	15,654,000	45,312,790
間接経費	3,663,900	1,433,717	1,206,000	6,303,617
合計	19,026,900	15,729,507	16,860,000	51,616,407

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	20	10	127	157
直接経費	113,786,057	8,258,182	113,469,873	235,514,112
間接経費	36,357,453	831,818	11,686,310	48,875,581
合計	150,143,510	9,090,000	125,156,183	284,389,693

	大学全体			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	25	23	143	191
直接経費	129,149,057	22,553,972	129,123,873	280,826,902
間接経費	40,021,353	2,265,535	12,892,310	55,179,198
合計	169,170,410	24,819,507	142,016,183	336,006,100

※文部科学省共同利用・共同研究拠点事業除く

(4) 教育研究協力資金

(単位:円)

	個人	企業・団体	合計
件数	534	7	541
金額	19,496,030	32,500,000	51,996,030

学内人事

【医学部】

【新採用】

<令和4年1月1日付>

放射線医学 講師 石川 陽二郎
微生物学 助教 北村 大志
放射線医学 助手 伊藤 謙吾
内科学第三(循環器内科) 助手 鎌田 綾佳

<令和4年4月1日付>

医療管理学 教授 伊藤 弘人
放射線医学 教授 山田 隆之
脳神経外科学 准教授 遠藤 俊毅
小児科学 講師 三浦 雄一郎
麻酔科学 講師 猪狩 由
精神科学 助教 桐生 幸歩
脳神経外科学 助教 高橋 義晴
内科学第二(糖尿病代謝内科) 助手 大古 奈津子
内科学第二(消化器内科) 助手 鹿島 雄州
内科学第三(腎臓内分泌内科) 助手 加藤 季子
内科学第一(循環器内科) 助手 黒瀬 裕樹
整形外科 助手 佐藤 雄紀
外科学第一(消化器外科) 助手 佐藤 好宏
臨床検査医学 助手 鈴木 歩
救急・災害医療学 助手 松村 隆志
老年神経内科学 助手 八木橋 崇仁
外科学第一(消化器外科) 医師 辻仲 眞康
内科学第一(呼吸器内科) 医師 光根 歩
内科学第二(糖尿病代謝内科) 医師 宗像 佑一郎
内科学第三(血液・リウマチ科) 医師 永谷 勝也

【昇格(職名変更)】

<令和4年4月1日付>

内科学第二(消化器内科) 講師→准教授 小暮 高之
地域医療学 助教→講師 菅野 厚博
心臓血管外科学 助教→講師 皆川 忠徳
内科学第二(消化器内科) 助手→助教 川上 瑠子
泌尿器科学 助手→助教 及川 真亮

【兼任】

<令和4年4月1日付>

麻酔科学 特任教授 大野 勲
(医学教育推進センター)

【兼任解除】

<令和4年3月31日付>

医学教育推進センター 教授 古川 勝敏
(地域医療学)
医学教育推進センター 准教授 石塚 正人
(整形外科)
医学教育推進センター 准教授 大原 貴裕
(地域医療学)
医学教育推進センター 准教授 鈴木 貴博
(耳鼻咽喉科学)
医学教育推進センター 准教授 住友 和弘
(地域医療学)
医学教育推進センター 准教授 藤盛 寿一
(老年神経内科学)
医学教育推進センター 准教授 児山 香
(外科学第一(消化器外科))
医学教育推進センター 准教授 菅原 崇史
(外科学第二(呼吸器外科))
医学教育推進センター 講師 石橋 直也
(外科学第二(呼吸器外科))

医学教育推進センター

講師 西郷 陽子
(眼科学)

医学教育推進センター

講師 中野 陽夫
(内科学第一(循環器内科))

医学教育推進センター

講師 丹治 泰裕
(内科学第二(糖尿病代謝内科))

医学教育推進センター

助教 近藤 史帆
(内科学第二(消化器内科))

医学教育推進センター

助教 皆川 忠徳
(心臓血管外科学)

医学教育推進センター

助教 宮澤 イザベル
(地域医療学)

【所属変更】

<令和4年4月1日付>

薬学部病態生理学(講師)→医学部医学教育推進センター 准教授 宮坂 智充
臨床検査医学→内科学第三(血液・リウマチ科) 講師 沖津 庸子
救急・災害医療学→地域医療学 助教 大泉 智哉

【勤務地変更】

<令和4年4月1日付>

東北医科薬科大学病院→東北医科薬科大学若林病院 特任教授 赤井 裕輝
(内科学第二(糖尿病代謝内科)) 准教授 住友 和弘
(地域医療学) 助教 大泉 智哉
(地域医療学)

法人より

〔退職〕

<令和3年11月30日付>
外科学第一(消化器外科)
<令和3年12月31日付>
皮膚科学
救急・災害医療学
<令和4年3月31日付>
放射線医学
内科学第一(呼吸器内科)
医療管理学
放射線医学
感染症学
泌尿器科学
医療管理学
外科学第一(消化器外科)
内科学第二(消化器内科)
脳神経外科学
小児科学
内科学第三(血液・リウマチ科)
精神科学
泌尿器科学
内科学第二(消化器内科)
眼科学
脳神経外科学
外科学第一(消化器外科)
泌尿器科学
内科学第二(消化器内科)
救急・災害医療学
眼科学
老年神経内科学
内科学第二(消化器内科)
<令和4年5月31日付>
内科学第三(腎臓内分泌内科)
病理学
地域医療学

助教 安本 明浩
准教授 高橋 一夫
講師 古屋 智規
教授 福田 寛
教授 海老名 雅仁
教授 濃沼 信夫
教授 小山 周樹
教授 関 雅文
教授 佐藤 信
准教授 伊藤 道哉
准教授 小川 仁
准教授 目黒 敬義
准教授 佐藤 健一
講師 川合 英一郎
助教 堤 智美
助教 櫻田 久美
助教 阿南 剛
助教 佐藤 倫紀
助教 一迫 玲央
助教 龜山 昌幸
助教 伊勢 一郎
助教 小羽田 悠貴
助教 佐藤 格
助教 眞田 千穂
助教 浅野 良視
助教 佐藤 和彦
助手 津守 孝彦
准教授 谷 淳一
講師 村上 圭吾
助教 宮澤 イザベル

〔薬学部〕

〔新採用〕

<令和4年1月1日付>
病院薬剤学
<令和4年4月1日付>
環境衛生学
病態生理学

〔昇格〕

<令和4年4月1日付>
薬学教育センター
細胞制御学
生薬学
医薬合成化学
天然物化学

〔兼任〕

<令和4年1月1日付>
東北医科薬科大学病院薬剤部

〔兼任解除〕

<令和4年3月31日付>
医薬合成化学

〔退職〕

<令和4年3月31日付>
感染生体防御学
薬学教育センター
環境衛生学
細胞制御学

〔教養教育センター〕

〔退職〕

<令和4年3月31日付>
独乙語学

〔事務局〕

〔新採用〕

<令和4年4月1日付>
事務局

助教 渡邊 卓嗣
助教 山縣 涼太
助手 高橋 健人

准教授→教授 諸根 美恵子
講師→准教授 伊左治 知弥
講師→准教授 村田 敏拓
助教→講師 成田 紘一
助手→助教 八木 瑛穂

渡邊 卓嗣
(病院薬剤学・助教)

教授 吉村 祐一
(分子薬化学)

教授 柴田 信之
教授 米澤 章彦
助教 進藤 佐和子
助教 黒田 喜幸

教授 山下 剛

事務局長 黒崎 米造

〔昇格〕

<令和4年4月1日付>

学務部キャリア支援課 課長補佐→学務部キャリア支援課長 永沼 美佐子
学務部庶務課 課長補佐→学務部庶務課長 小原 宏紀
企画部研究支援課 課長補佐→企画部研究支援課担当課長 佐藤 真一
医学部事務部施設課 課長補佐→医学部事務部施設課長 高橋 修一

〔配置換え〕

<令和4年6月1日付>

医学部事務部教務課→医学部事務部キャリア支援課 課長 岡本 功喜

〔兼任〕

<令和4年4月1日付>

財務部長 黒崎 米造
(事務局長)
医学部事務部キャリア支援課長 岡本 功喜
(医学部事務部教務課長)

<令和4年6月1日付>

医学部事務部教務課長 山田 純司
(医学部事務部長)

〔兼任解除〕

<令和4年3月31日付>

学務部庶務課長 畑中 亨
(学務部長)
医学部事務部施設課長 山田 純司
(医学部事務部長)

<令和4年5月31日付>

医学部事務部キャリア支援課長 岡本 功喜
(医学部事務部教務課長)

〔退職〕

<令和4年3月31日付>

事務局 堀田 徹
事務局 課長 大倉 靖
学務部就職課

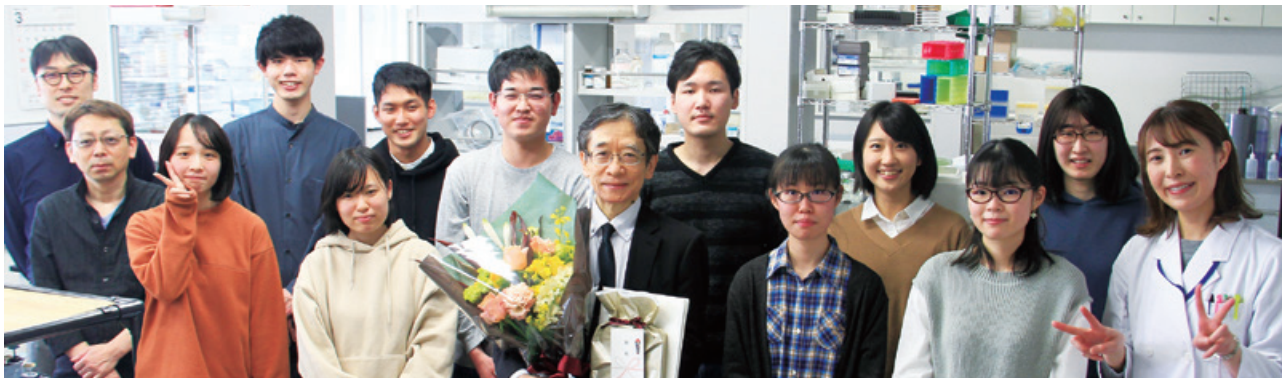
福田寛医学部長、柴田信之薬学部長ご退職

本学の教育に長年ご尽力いただいた医学部長の福田寛先生、ならびに薬学部長の柴田信之先生が、令和4年3月をもってご退職されました。それぞれのキャンパスで行われた先生方を送る会では、お世話になった教職員や教室配属生から感謝を込めて花束

が贈呈されました。福田先生、柴田先生、今まで色々ご指導いただき本当にありがとうございました。お体を大切に、いつまでもお元気でお過ごしください。



前医学部長の福田寛先生(福室キャンパス エントランスホールにて撮影)



前薬学部長の柴田信之先生(小島キャンパス 感染生体防御学教室内で撮影)

永年勤続者表彰について

例年、創立記念日に行っている永年勤続表彰式は、宮城県内の新型コロナウイルスの感染拡大・医療体制の逼迫を鑑み、昨年度・一昨年度同様中止となりました。

対象者62名には、高柳理事長からの感謝を綴った挨拶状・表彰状・記念品が贈呈されました。

【表彰者の内訳】

大学:17名 本院:37名 若林病院:8名



新型コロナウイルス感染対策 WEBセミナーを開催

令和4年2月21日(月)に、東北医科薬科大学医学部 感染症危機管理地域ネットワーク寄附講座主催で、新型コロナウイルス感染対策WEBセミナーをオンライン開催しました。大学や病院、仙台市などの関係者に参加を呼びかけ、260名が参加しました。

演題:「新型コロナウイルスの家庭内感染をふせぐ -ある日家族が感染し、私は濃厚接触者になりました-」

緊急開催
新型コロナウイルスの
家庭内感染をふせぐ

「ある日家族が感染し、私は濃厚接触者になりました。」
どうすればいいの?
家庭で行う対策を感染症対策の専門家から学びます。

日時: 2022年2月21日(月) 18:30~19:30
場所: webセミナー (無料開催)
定員: 300名
プログラム:

司会: 賀来満夫 (東北医科薬科大学医学部特任教授)

情報提供
「新型コロナって? オミクロンって?
最新情報・役立つ資料を紹介」
講師: 吉田眞紀子
(東北医科薬科大学 医学部感染症危機管理地域
ネットワーク寄附講座准教授)

講演
「家庭での感染はなぜ起こる? どうやって防ぐ?
~濃厚接触者となり、感じたこと~
自分だけは大丈夫と思っていませんか?」
講師: 遠藤史郎
(東北医科薬科大学病院感染制御部部長・病院教授)

お申込み: 事前登録制です。QRコードをクリックするか
コードを読み込み、参加登録を行ってください。

※ 講演の録音・録画、画面の撮影はご遠慮ください
※ 講演についての取材、記事への引用はご遠慮ください

主催: 東北医科薬科大学 医学部感染症危機管理地域ネットワーク寄附講座

「あおり藍葉エキス」の 新型コロナウイルス感染予防効果に期待

薬学部 生薬学教室の佐々木健郎教授らチームが研究する「あおり藍」から抽出されるエキスに、新型コロナウイルス感染予防が期待できる成分が見つかったとして、令和4年2月9日(水)に近畿大学等と共同でオンライン会見を行い、その様子が各種メディアに掲載されました。

詳細はこちらから



東日本放送



青森朝日放送



旭丘少年野球クラブの皆さんに、 Zoomを使ってトレーニング会を開催

体育学教室の遠藤壮助教が、旭丘少年野球クラブの皆さんに、Zoomを使ってトレーニング会を開催しました。トレーニング会では、コロナ禍で準硬式野球部が実施してきた「自宅でできるモビリティエクササイズ・インターバルトレーニング」を中心にトレーニングを行いました。トレーニング会の最後には、コロナ禍で思うような活動ができていない野球少年へ応援メッセージを伝えました。画面越しではありましたが、旭丘少年野球クラブの皆さんが元気いっぱいトレーニングしている様子が伝わってきました。



トレーニング指導をしている遠藤壮助教

本学学生が「東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞・笠原賞」を受賞

令和4年5月25日(水)仙台国際センターにおいて、東北大学白菊会第45回総会が開催され、本学学生2名が東北大学白菊会鹿野記念奨学奨励賞、1名が笠原賞を受賞しました。これらの賞は、白菊会から解剖学実習や診療科臨床実習等で優秀な成績を収め、将来、医療人として活躍が大いに期待される学生に贈られるものです。白菊会総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため過去2年間は中止を余儀なくされ、今回は3年ぶりの開催となりました。

【鹿野記念奨学奨励賞】
 医学部医学科 3年 上野 大さん
 医学部医学科 3年 田中 寿英さん
【笠原賞】
 医学部医学科 6年 松川 洸子さん



遠藤史郎准教授がプロ野球年間表彰式「NPB特別賞」を受賞

新型コロナウイルス感染症対策専門家チームの一員として、プロ野球界の感染防止対策に尽力したとして、医学部 感染症学教室の遠藤史郎准教授に、プロ野球年間表彰式 NPB AWARDS 2021「NPB特別賞」が贈られました。



立田岳生講師と成田紘一助教が「令和3年度 日本薬学会東北支部奨励賞」を受賞

薬学部 分子認識学教室の立田岳生講師と、医薬合成化学教室の成田紘一助教が「令和3年度 日本薬学会東北支部奨励賞」を受賞しました。本賞は、日本薬学会東北支部に所属する45歳未満の研究者で、基礎薬学または医療薬学に関する優れた研究業績をあげた者に授与されるものです。令和3年12月11日(土)にオンラインで開催された第43回東北薬学セミナーにおいて、奨励賞受賞式および受賞講演が行われました。

演題:「がん治療への応用を目指したウシガエル卵由来シアル酸結合性レクチン(cSBL)の基礎研究」
 立田 岳生 講師

演題:「分子内にジスルフィド結合を含む環状デプシペプチド類の全合成研究」
 成田 紘一 助教



立田岳生講師



成田紘一助教

高井淳助教が「第23回日本ヒスタミン学会でYoung Investigator award(和田記念賞)」を受賞

医学部 医化学教室の高井淳助教が、第23回日本ヒスタミン学会でYoung Investigator award(和田記念賞)を受賞しました。日本ヒスタミン学会では、本会の名誉会員である故和田博大阪大学名誉教授のご遺志を受け、若手研究者の研究奨励を目的として、若手研究者の学会発表の中から特に優秀な方にYoung Investigator Awardを授与しています。

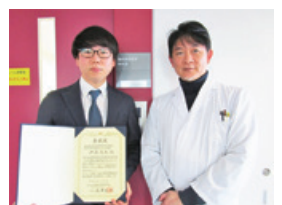
演題:「HDCLレポーターマウスの樹立と炎症刺激に応答して増加するヒスタミン産生好中球の解析」



社会人大学院生 伊藤亮太さんが「第13回日本化学療法学会東日本支部奨励賞」を受賞

大学院薬学研究科 臨床感染症学教室 社会人大学院生の伊藤亮太さんが、第13回日本化学療法学会東日本支部奨励賞を受賞しました。本賞は、感染症・化学療法に関する研究の進展を図るため、第68回日本化学療法学会東日本支部総会において発表された一般演題の中で、特に優れた発表の筆頭発表者に授与されるものです。

演題:「プロバイオティクス製剤に関連したClostridium butyricum菌血症の一例」



トピックス

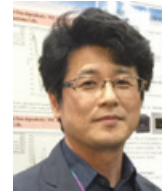
住友和弘准教授が「第8回 昭和上條医療賞 授賞式」で表彰

令和3年12月20日(月)に昭和大学で開催された「第8回 昭和 上條医療賞 授賞式」で、医学部 地域医療学教室の住友和弘准教授が表彰されました。本賞は、地域保健医療及び医学・医療分野の教育において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果をあげた実践者またはグループを表彰するものです。



黄基旭教授が日本毒性学会「第8回日化協LRI賞」を受賞

薬学部 環境衛生学教室の黄基旭教授が、日本毒性学会「第8回 日化協LRI賞」を受賞しました。本賞は、研究の奨励および研究者育成の一環として、“化学物質が人の健康や環境に与える影響”に関して優れた業績をあげた研究者を表彰されるものです。授賞式は、令和4年6月30日(木)～7月2日(土)に、札幌コンベンションセンターで開催される「第49回日本毒性学会学術年会」において執り行われる予定です。



黄基旭教授

各種受賞の記事については、本学HP(右記QRコード)からもご確認いただくことができます。



教室紹介

医学部 内科学第一(呼吸器内科)教室(教室責任者:大類 孝教授)

当教室は肺がんの最新のがん薬物療法を実践しています。マルチコンパニオン検査によるドライバー遺伝子の解析や、がん免疫療法のバイオマーカー解析等による診断を行い、最新・最良の個別化医療を提供しています。また、北東日本研究機構(NEJSG)、北日本肺癌臨床研究会(NJLCG)の正会員として多施設共同研究も積極的に参加し、臨床的なエビデンスの創出を行っています。さらに、免疫学、病理学、呼吸器外科教室と共同し、肺がんのトランスレーショナル研究を実践し、さらなる個別化医療の開発を行っています。また、肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎などの診断・治療にも注力しています。

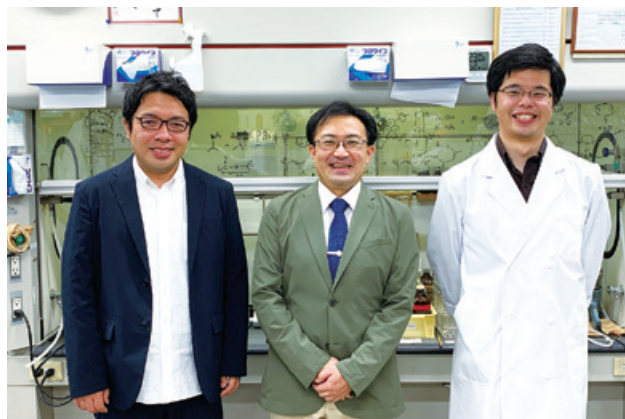
教育活動としては、1年次の早期医療体験学習に始まり、2年次の呼吸器学通論、3年次の課題研究、4年次の症候学、基礎臨床統合演習および基本的診療技能実習、4～5年次の臨床実習および6年次の統括講義など1～6年次まで幅広く担当しています。



内科学第一(呼吸器内科)教室のスタッフ

薬学部 医薬合成化学教室(教室責任者:渡邊 一弘准教授)

当教室は、旧・薬品製造化学教室の後継研究室として平成18年に発足しました。現在3名いるスタッフ全員が本学出身であり、日々、後輩学生の教育や研究の指導を鋭意行っています。私たちの研究基盤は「生物活性天然物の合成研究」です。自然界にある有機化合物を「天然物」といい、現在使用されている医薬品の多くはこの天然物をベースとして創られています。当研究室では、安価で入手容易かつ簡単な化学構造を有する化合物を出発原料として、複雑な構造を持つ天然物や医薬品のシーズ(種)となりうる有用な分子を化学的に合成しています。さらに、この「合成力」を活かして他分野との連携・共同研究へと発展させています。これらの研究で培われた知識や技能は、薬学部薬学科および同生命薬科学科の学生の皆さんの「有機合成力」を養うために重要であり、「化学者としての視点を有する薬剤師」や「合成力のある研究者」の育成に貢献できるように教室一丸となり取り組んでいます。



写真左から成田紘一 講師、渡邊一弘 准教授、佐藤廣河 助手

同窓会より

叙勲・表彰

卒業生が受章(受賞)されました。
心からお祝い申し上げますとともに
ますますのご活躍を心より祈念いたします。

◆文部科学大臣表彰 令和3年

【学校保健及び学校安全表彰】

新妻 龍之 様 元 一関市立赤荻小学校 学校薬剤師
昭和38年卒業(大学11回生)(岩手県)

◆春の叙勲 令和4年

〈文部科学省関係〉

【瑞宝双光章】

相川 恒徳 様 学校薬剤師
昭和36年卒業(大学9回生)(青森県)
菅原 俊英 様 学校薬剤師
昭和41年卒業(大学14回生)(岩手県)

二松会より

二松会とは、在学生の保護者によって組織され、大学および社会との緊密な連携を保ち、学生の教育に協力し、学生生活に適した事業を行うことにより教育の進展に寄与し、その効果を上げることを目的としている組織です。

令和4年度の二松会総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、皆様にご参集頂いての開催は行わず、書面表決という形を取らせて頂くことと致しました。

表決書等関係書類につきましては、8月中旬を目途にご送付させて頂く予定です。

令和4年度在学生保護者教育懇談会開催案内

本年度の在学生保護者教育懇談会(仙台開催)を、医学部は福室キャンパス、薬学部は小松島キャンパスにて、10月1日(土)に行います。

また、薬学部では仙台以外の地区で行う懇談会を10月15日(土)に秋田市にて、16日(日)に青森市で行います。

開催案内、詳細につきましては8月中旬を目途に送付予定ですので、ぜひ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

●医学部 在学生保護者教育懇談会

<仙台開催>

日程：10月1日(土) 10:00～(予定)

会場：東北医科薬科大学 福室キャンパス

●薬学部 在学生保護者教育懇談会

<仙台開催>

日程：10月1日(土) 10:00～(予定)

会場：東北医科薬科大学 小松島キャンパス

<秋田開催>

日程：10月15日(土)

会場：秋田市(ANAクラウンプラザホテル秋田)

<青森開催>

日程：10月16日(日)

会場：青森市(ホテル青森)

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合がございますので、あらかじめご承知おき願います。

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

<寄付申し込み方法(個人でのお申込み)>

- ・インターネット：クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLよりお手続きください。(教育研究協力資金URL:<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/>)
- ・銀行振込：振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。



<問い合わせ先>

財務部財務課 TEL:022-234-4181(代表) E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
電話番号 022(234)4181(代) FAX 022(275)2013
URL <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから



東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから

